

「和と奉仕」

医療と地域を結ぶ新たな「新病院」を目指して

新那覇市立病院（仮称）基本設計 概要版

2020年3月



施設整備方針 市民が求める安心・安全な医療や高度医療の提供を目指して

「市民にとって安心安全な病院づくり」

- ・すべての人にとってやさしく、安全に利用できるユニバーサルデザインへの配慮
- ・事故発生の防止と医療の質の確保、セキュリティや情報の保護等、医療安全の向上
- ・感染症等への対応に配慮
- ・駐車台数確保、ゆいレール駅との結節等、利便性の高い交通手段への対応

「地域災害拠点病院としての整備」

- ・医療空間・設備機器の被害を最小限に抑える「免震構造」の採用
- ・被災疾病者の受入スペース、各諸室の機能転用及び災害備蓄倉庫の整備等、災害発生時における医療継続への対応

「1・2次救急・小児科24時間365日体制の維持」

- ・市民の救急医療を担う市立病院として、現在の急病センター機能の維持
- ・小児科専門医による24時間365日の小児救急医療の維持

「環境にやさしい病院づくり」

- ・省エネルギー型設備の導入や空調負荷軽減を十分考慮した施設の設置
- ・緑化について十分配慮した外構計画

デザインコンセプト 「結い」をキーワードとした、医療と地域を結ぶ新病院

01 周辺環境に呼応する

- ・立体的で豊かな緑環境を取り入れた周辺環境と結びつくような計画
- ・周辺地域との一体感のあるデザイン

02 記憶をつなぐ

- ・現病院エントランスへの軸線の記憶をつなぐ集いの場や緑の計画
- ・現存する樹木を最大限に生かした計画

03 気候風土に馴染む

- ・患者が心地よいと思える療養環境を1年を通して実現できる計画
- ・環境シミュレーションによる気候風土に馴染む療養環境のデザイン

04 地域・街とつながる

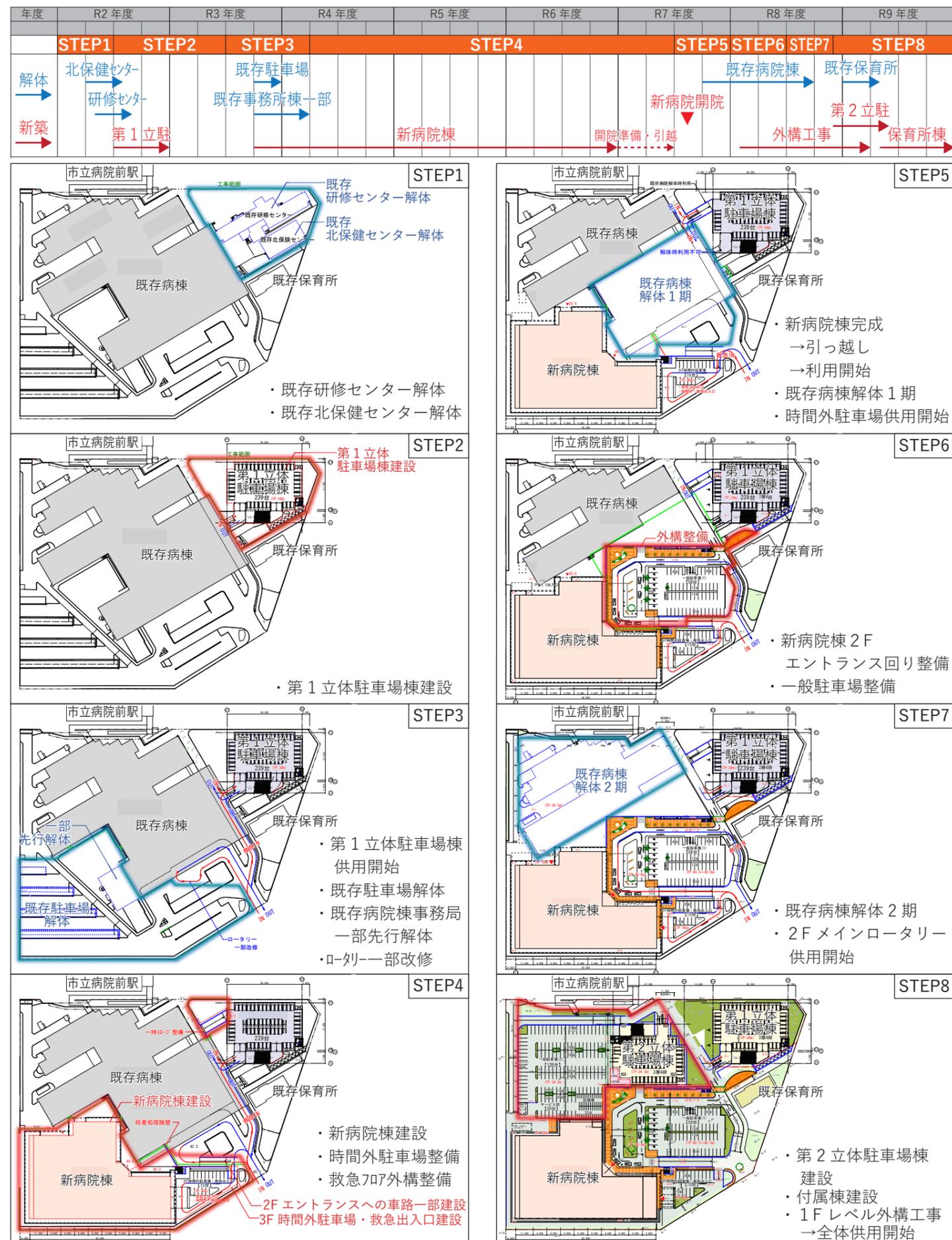
- ・地域・街を守る地域医療のシンボルとなるデザイン
- ・温かみを感じるデザイン

05 治癒力を促す

- ・利用者の治癒力を促すきめ細やかなインテリア計画
- ・沖縄・那覇らしさを要所に取り入れた、安心しくつろぐことの出来る雰囲気づくり

建替えの手順 診療を継続しながら行う建替え計画

- ・本計画においては、市民への医療を継続していくため、現病院を運用しながら新病院の建設を行っていきます。様々な敷地内の制限がある中で、利用者への影響を少なくするため、以下のように段階的な建替えを行います。



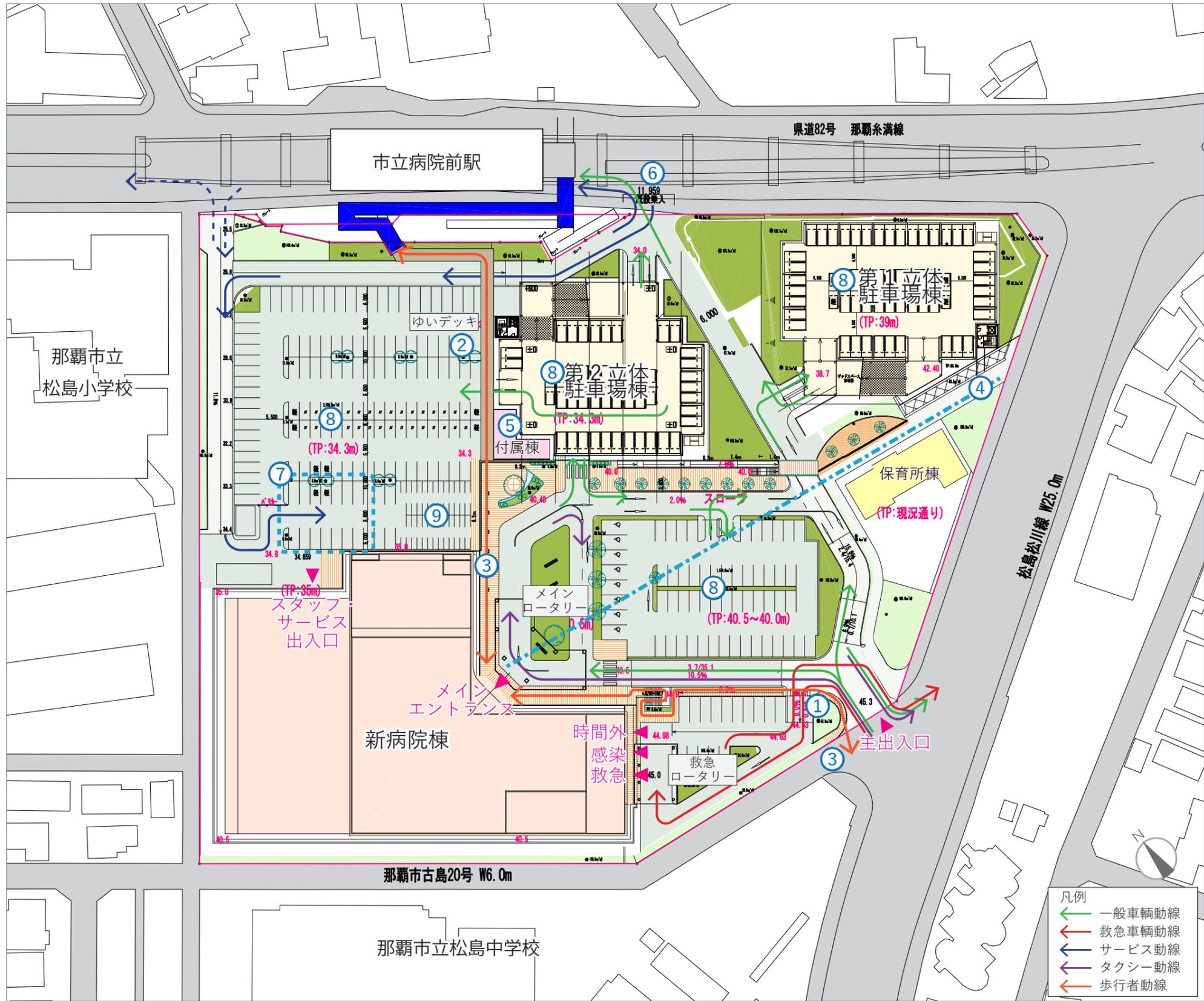
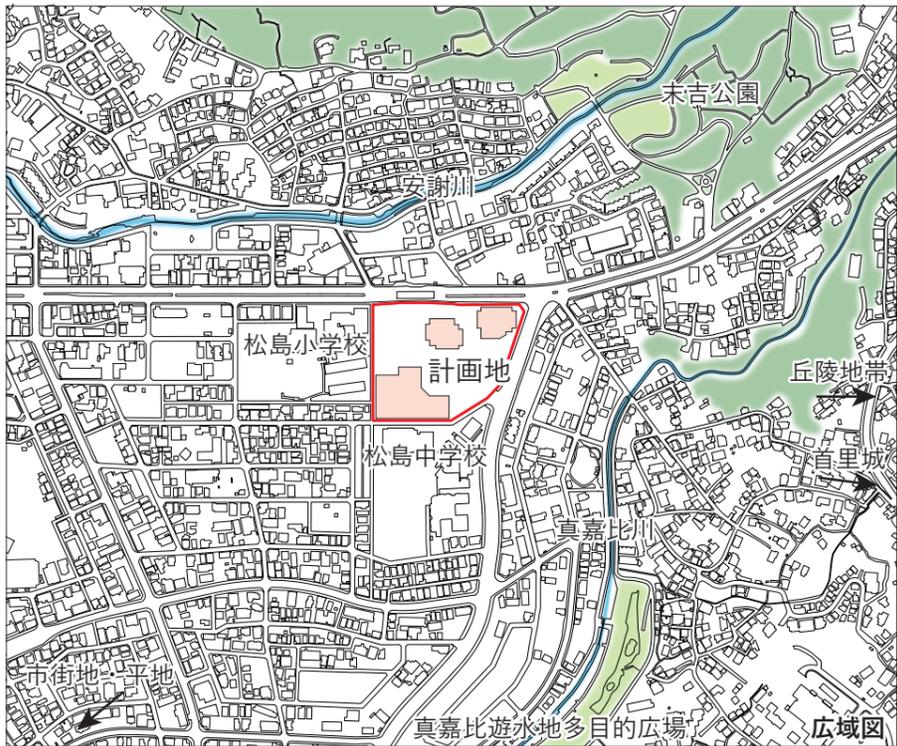
配置計画 ゆいレール駅からのアクセスを考慮した、地域に開かれた病院

- ・高低差の大きい敷地形状や既存建物の配置・動線に十分配慮した計画とします。
- ・敷地内は歩車分離の計画とし、既存の出入り口をいかす等、利用者にとって安全でわかりやすい計画とします
- ・エントランスは、メイン、救急搬入・時間外、スタッフ・サービス用とそれぞれ異なるレベルに計画することで、動線を分離し、かつ、管理しやすい計画とします。

- ① 一般車両と救急車両の動線を分離
- ② ゆいレールに直結するゆいデッキの設置
- ③ ゆいレールからゆいデッキ、新病院2Fエントランス、南側道路への歩行者動線の確保
- ④ 既存病棟の軸の記憶を残す外構計画及び歩車分離
- ⑤ 防災倉庫や将来の院内施設の展開を想定した付属棟
- ⑥ 既設乗入部での一般車両とサービス動線の分離
- ⑦ サービス車両を集約
- ⑧ 駐車場：計 660 台
(内訳：第 1 立駐 239 台
第 2 立駐 199 台
平場駐車場 222 台)
- ⑨ 駐輪場 52 台

外構計画 周辺環境とつながる外構計画

- ・計画地は、安謝川と真嘉比川とに挟まれた丘陵地帯上に位置し、南北方向へ向けて斜面が広がっている。
 - ・敷地の特性を踏まえた上で、機能上の外部動線計画にあわせて、主に以下に配慮した計画とする。
- ① 那覇市都市景観条例などに配慮・適合した計画とする
 - ② 既存の緑を可能な限り保存・活用すると共に、周辺住民と病院利用者の両者に潤いや豊かさを与えられるよう、効果的な位置計画に配慮する。



凡例

- ← 一般車両動線
- ← 救急車両動線
- ← サービス動線
- ← タクシー動線
- ← 歩行者動線

配置図 1/800

計画概要

敷地面積	約 25,180 m ²
用途地域	第一種住居地域/準住居地域
地区計画	地区計画区域：真嘉比古島地区
景観計画	那覇市景観計画区域：大規模整備エリア 2
建築面積	約 8,980 m ² (病院棟約 4,700 m ²)
延べ床面積	約 48,500 m ² (病院棟約 38,330 m ²)

建築概要

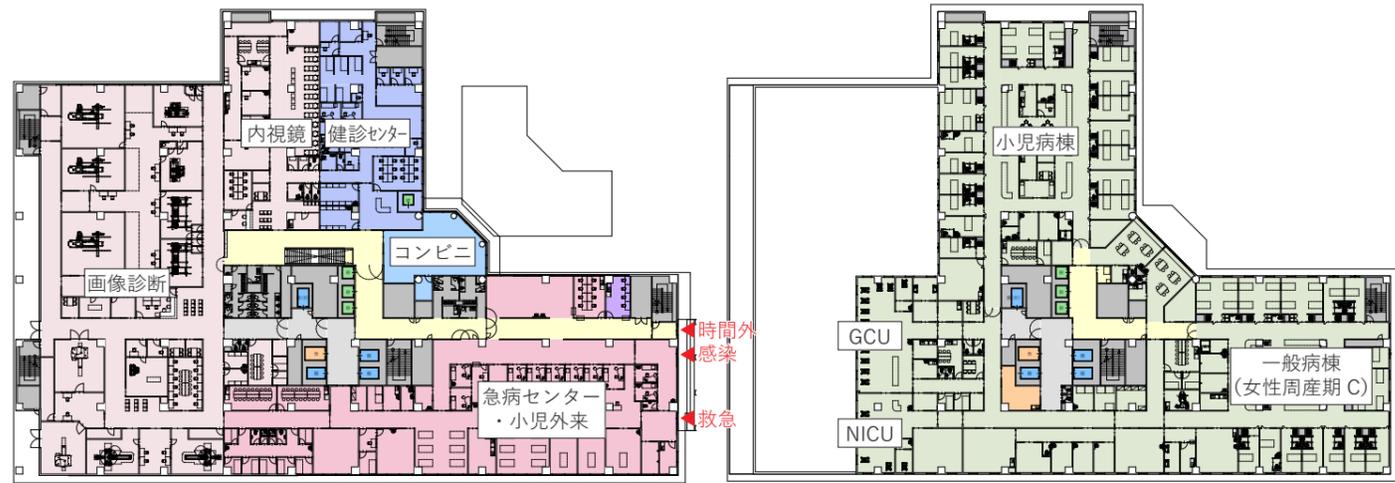
新病院棟	
規模	地上 11 階/地下 1 階
建築面積	約 4,700 m ²
延べ床面積	約 38,330 m ²
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造 (免震構造)
病床数	470 床

第 1 立体駐車場棟

規模	地上 4 階
構造	鉄骨造
台数	239 台
付属棟	
規模	地上 3 階

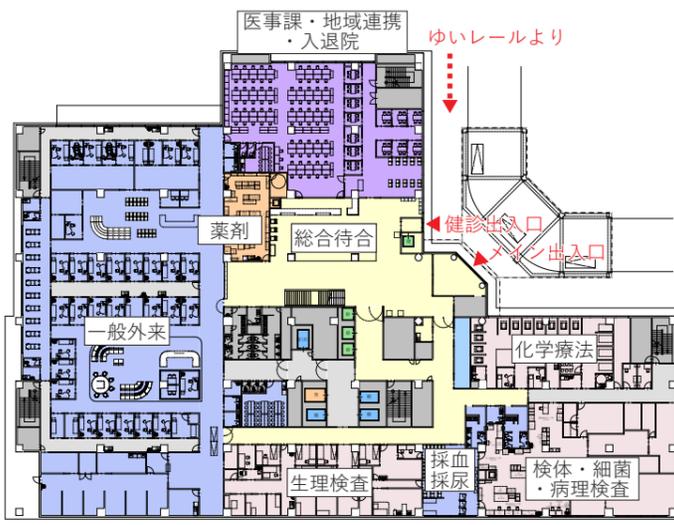
第 2 立体駐車場棟

規模	地上 4 階
構造	鉄骨造
台数	199 台
付属棟	保育所棟 (既存)
規模	地上 1 階

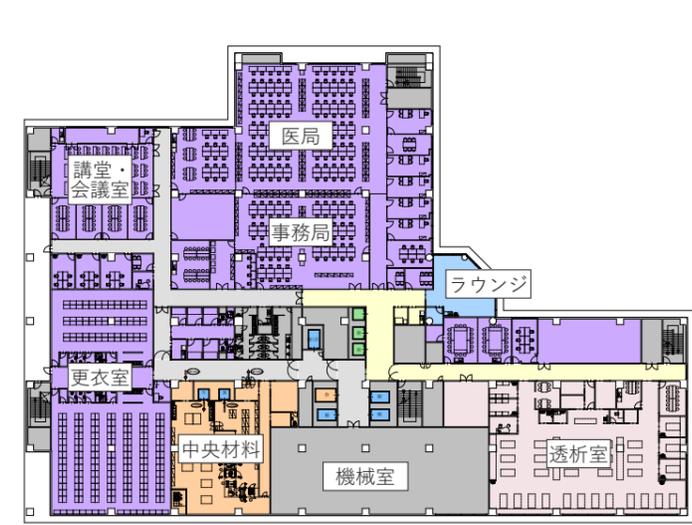


3F 健診・救急・検査フロア
専用入り口からアクセス可能な健診センターと急病センターを中心に連携を図りやすい検査諸室を計画

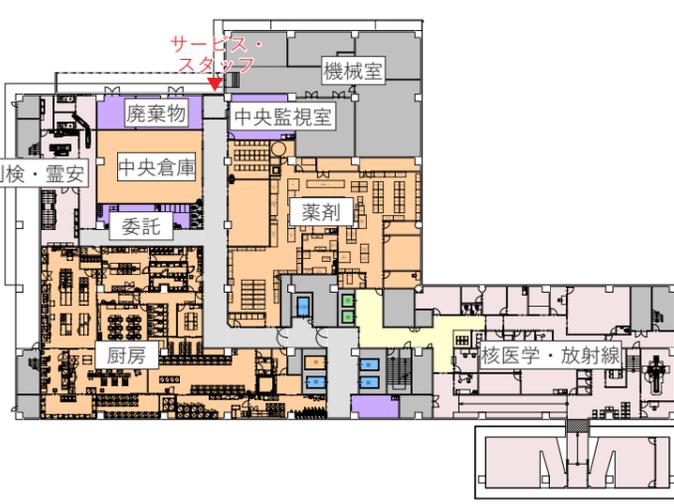
6F 女性周産期センター病棟・小児病棟フロア
NICU・GCU・小児病棟・女性周産期センターを1フロアに集約



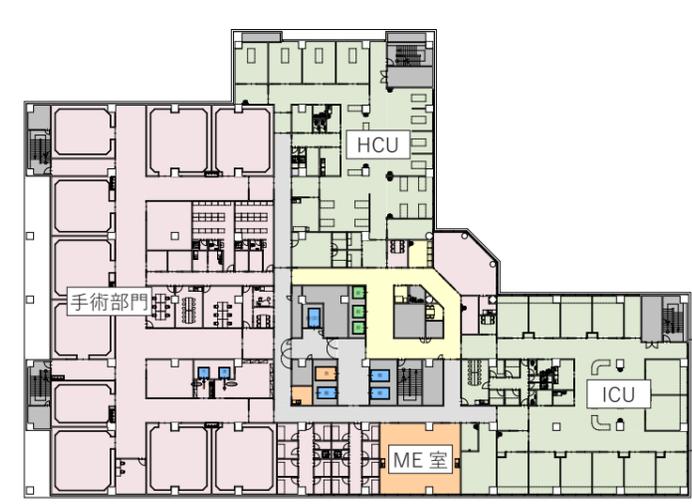
2F 総合待合・外来フロア
メイン出入口から利用しやすい総合待合と一般外来を計画



5F 管理フロア
一般・スタッフゾーンを明快に区分したスタッフ・管理諸室を計画



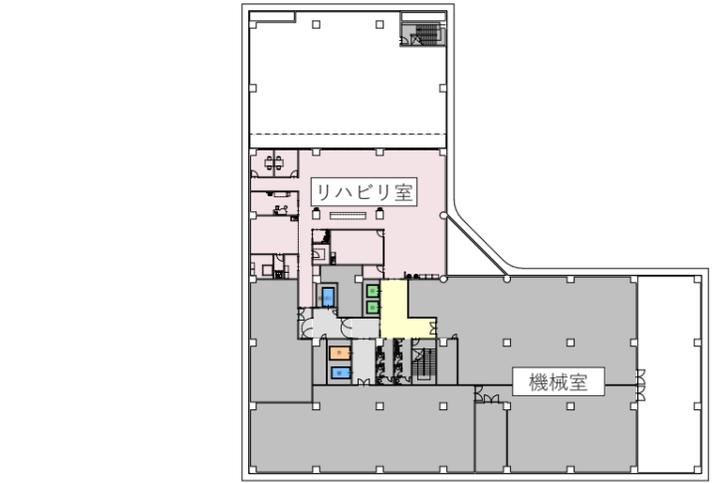
1F 供給・核医学・放射線フロア
動線を明確に区分したサービス諸室を計画



4F 手術室・高度医療フロア
下階の急病センターを含め手術部門と連携しやすい高度医療諸室を計画

凡例

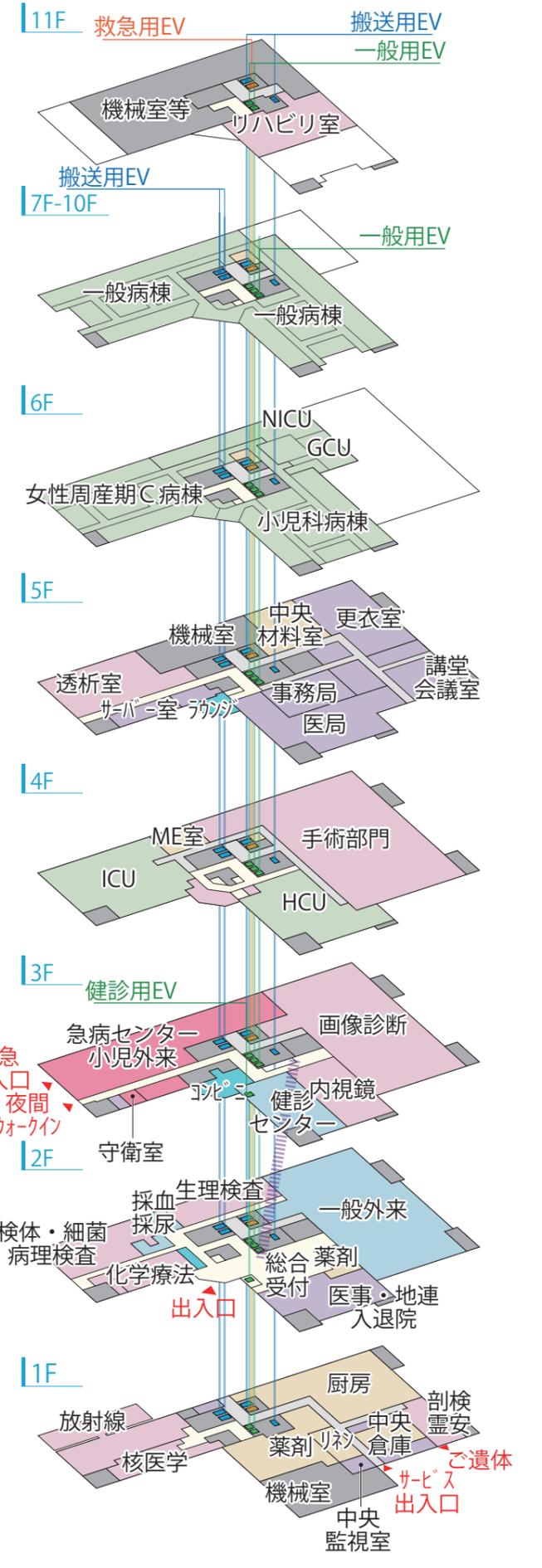
部門ゾーン	昇降機
病棟	患者・一般用 EV
外来	搬送用 EV
救急	救急用 EV
中央診療	その他
共用廊下	スタッフ廊下
供給	
アメニティ	
管理	



11F リハビリテーションフロア
リハビリテーション室を最上階に計画



10F 一般病棟フロア
見通しを考慮した一般病棟を計画



梓設計・ワールド設計・国吉設計 設計共同体

